

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成16年(2004)大会号



新潟県立村松高等学校東京同窓会

No. 37

松高東京同窓会 第47回大会に臨んで

大会実行委員長 伊藤 勇五 (旧中33回)



松高東京同窓会の皆様、お久しぶりです。
凡そ一年ぶりのご挨拶になりますが、その後、皆様には
お変わりなくお過ごしのことと存じます。

桜もとつくに終わり、ゴールデンウィークもすでに去
って、早くも暦は6月、今年もいつしか半分を過ぎよう
としています。そして例年の事ながら避け様のない梅雨
の季節を迎えました。来る日も来る日も雨、それが一ヶ
月も続くどうしても外へ出るのが億劫で出不精になり、
家に閉じ籠り勝ちになります。そうすると、人に依って
は生活のリズムが崩れ、ストレスが溜まる結果になるよ
うです。今と違って昔は私も雨の時期は苦手でしたから、
“入梅になるとうんざりする。”と云う人達の声も頷けま
す。然し、この梅雨が山野の草木や田畑の作物の育ち
や実りに欠かすことの出来ない雨を齎して呉れます。特
に水資源の確保につながるダムや河川の貯水は、この季
節の降雨の多寡に左右されます。雪不足と空梅雨は夏期
の水不足の大きな原因となっています。

長雨で生活のリズムがどうの、ストレスがどうのと云

っても、たっぷり雨を伴った梅雨が理想な訳です。

この事実を踏まえて私達も“我が物と思えば軽し笠の
雪”的な考えで、もっと楽に過ごせる梅雨対策が必要でし
よう。梅雨に雨は当たり前なのですから。私なりに云え
ばこの時期は出不精にならず、普段の月より敢えてマメ
に外へ出ることをお奨めします。外へ出れば出会いがあり、
発見があります。出会いには会話が、発見には思考
が付き物です。ストレスなど生じる余地がありません。

出会いと言えば、6月は松高東京同窓会の総会が開か
れる月です。すでにご案内の通り6月19日、昨年と同じ上野東天紅を会場に、第47回の大会が開催されます。
これこそ外へ出て出会いを楽しむチャンスです。お互い
故郷、母校に共通の思いを抱く同窓生同志、この日の素
晴らしい出会いに期待して居ります。

会長はじめ、役員一同、実行委員一同、皆様のご参加
をお待ち申して居ります。そして第47回大会の盛会を
祈念すると共に、皆様のご協力を心からお願い申し上げ
る次第です。

東京同窓会 第47回大会 プログラム

日時 平成16年6月19日(土) 正午開催 会場 東天紅・上野店

第一部 総会 (司会・進行 亀山 知明、徳永 道子)

- 1) 開会の言葉・・・・・・・・・・・・・実行委員長 伊藤 勇五
- 2) 東京同窓会長挨拶・・・・・・・・・・・・・会長 佐伯 益一
- 3) 村松高校同窓会長挨拶・・・・・・・・・・・・・会長 伊藤 淳一
- 4) 村松高校学校長挨拶・・・・・・・・・・・・・校長 水茎 芳英
- 5) 平成15年度委員会報告
 - イ) 総務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 金子 鶴男
 - ロ) 財務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 塚田 勝
 - ハ) 平成15年度会計監査報告・・・・・・・・・・・・・監 事 佐久間英輔
 - ニ) 広報委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 大橋 貞夫
- 6) 役員改選・次期会長改選・・・・・・・・・・・・・提案・承認
- 7) 新会長挨拶
- 8) 閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・司会者

第二部 懇親会 (司会・進行 亀山 知明、徳永 道子)

- 1) 開会の言葉・・・・・・・・・・・・・司会者
- 2) 乾杯・・・・・・・・・・・・・鈴木 節子
- 3) アトラクション・・・・・・・・・・・・・イ) フラダンス 鈴木 節子 他
ロ) 佐渡おけさ 熊倉 富次 他
- 4) 抽選会・・・・・・・・・・・・・篠川 恒夫 他
- 5) 校歌・応援歌・・・・・・・・・・・・・全 員
- 6) 手締め・・・・・・・・・・・・・鈴木多喜男
- 7) 閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・深見 洋子

村松高等学校後援会の設立

村松高等学校長 水荃 芳英



松高東京同窓会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃の母校松高に対する物心両面にわたるご支援に心から感謝申し上げます。

昨年4月に着任して以来の最大のトピックは、村松高等学校後援会の設立であります。昨年の6月に上野の東天紅で行われました東京同窓会での挨拶の中で、松高の現状（窮状）を申し上げ、何とか改善したい、と訴えさせていただきましたが、村松町の教育関係者はじめ、同窓会・各界においても、村松高校に対する期待や思いは同じでありました。その思いを形に表していただいたのが、この「村松高等学校後援会」であります。

これは、伊藤町長様を後援会長として、松高の教育振興を後援し、その発展に寄与する目的で設立されたものです。顧問に塚野弘・佐藤純両県議様、副会長に伊藤淳一同窓会長様と茂野純一町商工会長様、評議員に町議会議長様をはじめ、各教育関係団体の皆様方から加わっていただき、まさに町をあげて松高を応援していただくことになりました。誠にありがたいことです。

ここで、是非付け加えなければならないことは、この後援会設立にあたって、荒木村松町教育長様から、甚大なお骨折りを賜りましたことであります。荒木教育長様はその後、何度も県教育委員会に足を運び、村松高校に対する支援を要請して下さいました。

また一方では、伊藤同窓会長様におかれましては、荒木教育長様とこの松高後援会の発足に向けて二人三脚で御尽力賜りました。また、産婦人科医という大変お忙しい身であられながら、本校の生徒を何人も家庭教師して下さっており、本校の大学進学率向上に御尽力いただいていますことに紙面を借りて心から感謝申し上げます。

さて、本年の進路状況でございますが、大学・短大進学希望者25人に対して、19人がその希望を達成いたしました。不況の影響でしょうか、進学希望者そのものが昨年度の進学実績35人を大幅に下回りました。予備校を含めた専門学校等が80人、就職及び未定者が96人となり、専門学校等を含む進学が99人、就職が96人と、おおよそ50:50の状況でした。

進学者の内訳をみますと、国立山形大学や、県立新潟女子短大、新潟薬科大学等の最近あまり合格できなかった大学に合格できるようになったことは、生徒の頑張りを褒めてやっていいのではないのでしょうか。

この大学進学の質の向上は、同窓会から入れて頂いたクーラーのお陰でもあると思います。昨年の夏はまず、

本校で一番収容力のある会議室に

クーラーを入れて頂きました。また、さらに、学級減で空き教室となった2つの教室に、同窓会長様の英断で新たにクーラーを入れて頂きました。今年度は各学年で涼しい部屋で夏の補習ができそうです。この同窓会からの贈り物を無駄にしないよう十分活用して、進学実績を上げるよう生徒・職員共々頑張りたいと思います。

就職におきましては、新津職安管内の高校生に対する求人倍率が0.5と県下でも最低の状況で、未だに就職できない生徒が15名おります。同窓の皆様が会社や企業で雇っていただけたところがありましたら是非ご紹介ください。

次に部活動の状況ですが、一時部活動があまり活発でなかったという話を聞きましたが、最近はこの部も活発で、野球部などは、県大会の常連校となり、地区では五泉高校と1・2を争っております。その他、剣道部、陸上部、バドミントン部、バスケットボール部、サッカー部などが非常に頑張っております。文化部においても名物のカメラ部が全国大会の常連校として頑張っております。他には書道部や華道部、茶道部、吹奏楽部なども地道な活動を続けております。

また、今年度は、インターアクト同好会が新たに発足しました。その発会式が6月20日（日）に行われます。これは、五泉・村松両ロータリークラブの熱心な働きかけにより設立されたものです。とかく今の若者は、指示待ち人間と身勝手な人間が多いと言われている中で、自ら進んで奉仕活動を行い、世界平和と親善に寄与することを主な目的として、村松高校生が地域において広くボランティア活動を行い、素敵な地域づくりに貢献したいという趣旨に基づいております。

このインターアクト同好会の発足に際しては、村松ロータリークラブの石川清隆様、滝沢長雄様をはじめとして多くのロータリークラブ会員様から御尽力を賜りましたことを紙面を借りて御礼申し上げます。

以上、昨年度から今年度にかけてのこれまでの様子をご紹介いたしました。今後は、学校の中における教育改革を精力的に進め、往年の松高復活に向けて取組んでいきたいと思っております。そのためには、先ず、十年前から出来ました進学クラスのさらなる特化を進めるとともに、生徒一人一人の進路希望に応じた指導体制を整えたいと思っております。

今後ともご支援をよろしくお願い致します。

◇表紙について◇ 写真は五泉市郷屋地区の「ふれあい自然の里 水芭蕉公園」である。菅名岳の麓に昔から自生していた湿地帯を整備して平成8年3月に開園した。敷地面積21,000㎡、木道距離480m、植栽数30,000株
開花時期は3月下旬～4月上旬である。4月上旬には山桜との競演も見られる。 写真撮影 間藤謙一氏（高9回）

ありがとうございました

①平成15年度・会費納入された方々（敬称略）

◎旧中の部（27名）

相田忠亮、市川薫平、伊藤秀男、伊藤勇五、伊藤達郎
 亀嶋 謙、笠原健二郎、北沢卓夫、黒井伊作、熊倉 悟
 斉藤和男、斉藤朝之、佐伯益一、佐藤豊夫、酒井 忠
 式場俊三、高久貞夫、千代国一、弦巻隆輔、寺田徳隣
 成海正弘、西山荘平、松尾 貢、武藤三郎、横松宏平
 吉田公男、中村市雅一郎

◎高校男子の部（107名）

青木 猛、青木敏和、浅井昭男、新井康夫、阿部 勇
 安部 実、伊藤 馥、石黒四郎、石川 滋、今井英雄
 岩倉富栄、遠藤 昭、遠藤 順、大島惣四郎、大西範孝
 大橋貞夫、大橋俊夫、小笠原一憲、岡村嘉志、小黒利雄
 岡田見津夫、笠原 久、笠原静夫、加藤喜七、加藤清治
 金子鶴男、笠原大四郎、亀山知明、川合敏男、川村莞爾
 神田弘毅、杵渕政海、木村寿一、熊倉富次、熊倉芳夫
 雲村俊造、小池生夫、小出博三、小日山芳栄、小柳 実
 近藤毅夫、近藤英洋、近藤尚志、近藤洋輝、佐久間英輔
 斉藤正義、坂上卓夫、佐々木秀和、篠川恒夫、佐藤栄治
 佐々木秀三、佐藤 赴、佐藤良平、澤井 昭、沢出赴允
 杉山 喬、下野文幹、鈴木多喜男、鈴木健司、鈴木忠雄
 関塚 豪、瀬倉 薫、工 幸雄、高岡英治、高岡雄三
 高地 彰、高地 勝、高山幹雄、塚田 勝、土田 猛
 坪谷次郎、弦巻一郎、弦巻 等、鶴巻旻三、中川善隆
 中村雅臣、中山 健、二宮文三、長谷川五郎、根本俊夫
 羽賀道信、羽田清之輔、堀 直昭、増田訓英、松尾正春
 松尾真一郎、松田輝夫、間藤謙一、丸山貞次、湊 久直
 宮崎信次、宮沢正由、武藤正昭、村川恭平、村川五郎
 村川忠司、目黒義二、八木又一郎、築取正道、築取錦二
 山崎輝雄、山崎豊吉、山田一男、山田俊治、吉井 清
 渡辺嘉樹、渡辺八郎

◆平成14年度分会費納入者名

渡辺嘉樹

◆平成16年度分会費前納者名

松田輝夫

◆平成17年度分会費前納者名

松田輝夫

◎旧高女の部（11名）

石井洋子、一氏愛子、内田道子、小林早月、佐藤玲子
 佐藤 治、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ、藤崎トヨ
 堀 和子

◎高校女子の部（51名）

安達繁子、阿部ミサ子、飯利 幸、市川 俊、大嶋エミ
 五十嵐八瑞、大野靖子、緒方康子、岡部ユキ、小沢幸子
 大橋マツエ、緒形美恵子、風岡智鶴子、片柳ムツ
 神田正子、木村孝子、久我マキ、小島典子、斉藤英子
 斉藤弘子、佐久間順子、雑賀和子、佐藤綾子、佐藤八重
 佐々木恵美、白石キヨ、鈴木則子、高尾桂子、出口テル
 高岩美江子、高岡五百子、田川百合子、高浜つる子
 寺山征子、土井トシ、徳永道子、中島和子、中村エツ
 波多ミサエ、治田レイコ子、深見洋子、前川れい子
 升本久子、松本知子、真水道子、宮腰ヨイ、向山律子
 山西愈佐子、横溝田鶴、横溝美枝子、渡辺厚子

平成15年度会費納入者数

男子=134名 女子=62名 合計=196名

②平成15年度・寄付された方々（敬称略）

◎男子の部（13名）金額=40,000円

10,000円 二平一男
 7,000円 大橋俊夫
 3,000円 石田金平（県人会広報委員）
 2,000円 伊藤秀男、遠藤 順、小日山芳栄
 佐藤秀三、佐藤良平、二宮文三
 武藤三郎、中村雅臣、吉田公男
 横松宏平

◎女子の部（4名）金額=8,000円

2,000円 緒方康子、新保清子、土井トシ
 横溝田鶴

合計17名 48,000円

お願い

住所等の変更があった場合、速やかに事務局までご連絡をお願い申し上げます。

平成15年度会計収支決算書

(平成15年4月1日より平成16年3月31日まで)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位:円)	支出の部 (単位:円)
<u>特別会計</u> 第46回大会収入 (No.36既報) 681,000	<u>特別会計</u> 第46回大会支出 (No.36既報) 744,984
<u>一般会計</u> ① 平成15年度 会費 576,000 男子 130名 390,000 女子 62名 186,000 計 192名×年額 (3,000) 平成15年度会費前納 男子 4名 (平成14年度で処理済) 0 合計 196名 ② 平成15年度 寄付金 48,000 男子 13名 40,000 女子 4名 8,000 計 17名 ③ 平成14年度 会費 3,000 男子 計 1名 3,000 ④ 受取り利子(16・4/1 現在・税引後) 40 計 627,040 ⑤ 平成14年度から繰越金 1,304,056 郵便貯金 1292,563 手持現金 11,493 計 1,304,056 収入計 1,931,096	<u>一般会計</u> ① 第46回大会支出補填費 63,984 ② 会議費 226,578 (常任幹事会・幹事会・委員会) ③ 印刷、通信費 54,969 会長扱い 2,860 事務局扱い 30,000 総務委員会扱い 18,259 財務委員会扱い 3,000 会計扱い 850 ④ 会報発行費 (年2回) 442,904 編集費 50,012 No.35 印刷費(500) 141,750 同 送料 37,380 No.36 印刷費(500) 141,750 同 送料 47,600 封筒印刷費 21,000 宛名バツ印刷費 3,412 ⑤ 送金手数料 10,580 会費振込み手数料 7,970 送金手数料 2,610 ⑥ 一般送料・宅配費 5,528 ⑦ 県人会対応費 15,000 団体加入賛助会費 10,000 県人会報購入費 5,000 ⑧ 慶弔費 25,750 岡本和子副会長香典 10,000 同上供花料 15,750 ⑨ 諸雑費 (交通費、消耗品他) 1,765 支出計 847,058 差引残額 (16年度へ繰越し) 1,084,038 合計 1,931,096
※ 16年・17年度分会費で前納 (重複) あり、預かり金として本書に計上せず (松田輝雄) 6,000	※平成16年度への繰越金内訳 (1,084,038) 郵便貯金 1,056,459 手持現金 27,579 (会長25,220・会計2,359)

上記の通り報告いたします。

平成16年 5月 9日 会長・佐伯益一㊞ 財務委員長・塚田 勝㊞

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。平成16年 5月 9日 会計監事・佐久間英輔㊞ 安達繁子㊞



平成15年度 東京同窓会の動き

- | | |
|--|---|
| 4月20日(日) 編集会議 (会報35号)
13:00 新潟県人会館 | 9月 6日(土) 幹事・常任幹事会
14:00 新潟県人会館
平成16年度(第47回)大会について |
| 20日(日) 常任幹事会
14:00 新潟県人会館
大会準備及び案内状等発送 | 10月 4日(土) 編集会議 (会報36号)
13:00 新潟県人会館 |
| 20日(日) 幹事会
15:00 新潟県人会館
15年度大会準備 | 4日(土) 第一回 実行委員会
14:30 新潟県人会館 |
| 5月 1日(木) 会報35号原稿を第一印刷へ | 11月 8日(土) 編集会議 (会報36号)
13:00 新潟県人会館 |
| 25日(日) 実行委員会
13:00 東天紅
会場打合せ(料理、飲み物、設営) | 8日(土) 第二回 実行委員会
14:00 新潟県人会館 |
| 25日(日) 幹事会
14:00 新潟県人会館
大会実施細目 | 11月14日(金) 会報36号原稿を第一印刷へ |
| 6月 7日(土) 東京同窓会46回大会
12:00 東天紅・上野店 | 12月21日(日) 常任幹事・幹事会
15:00 東天紅上野店
会報発送・幹事会・忘年会 |
| 7月 5日(土) 常任幹事会
13:30 新潟県人会館
会報発送、大会総括 | 2004年 |
| 7月27日(日) 総務委員会
15:00 東京ガス四谷クラブ
実行委員会計画案・名簿作成 | 2月15日(日) 編集会議 (会報37号)
13:30 新潟県人会館 |
| 9月 6日(土) 編集会議 (会報36号)
13:00 新潟県人会館 | 2月24日(火) 総務委員会
17:30 東京ガス四谷クラブ
実行委員会計画案・名簿管理他 |
| | 3月28日(日) 編集会議 (会報37号)
13:30 新潟県人会館 |

張り込み

伊藤 勇五 (旧中33回)

今年早い時分にこんな事があった。2月の中頃、Y警察の刑事2人がマンションの管理室を訪ねて来た。手帳を示してNと名乗った刑事が「こちらの業務が終わるのは何時ですか」と聞いた。「一応6時です、でも此処から居室へ引き上げるのは大体6時半位ですね」と答え、その刑事から「突然ですが今日と明日こちらの仕事が終わった後、ここを張り込みに使わせて頂けませんか」と依頼された。思いがけない申出だったが業務が終わってなら断る理由が無い。張り込む目的も、見張る対象も聞いてないが「構いませんどうぞ使ってください」と承諾した。実は5年前、このマンションの反対側に分譲住宅が6棟建った。管理室の真向かいなので6棟全部が一望出来た。そこに住んでいる人達とは今はお互い笑顔で挨拶を交し合う間柄になっている。(ここに張り込んで見張るとしたらこの6棟の建物より他に無い)、まさかと思って少なからず気になった。案の定N刑事が「今日見張るのは道路向こうの一番右奥の家です、でもその家に何かあった訳ではないんです」と言って言葉を続けた。

数日前に管内で轢き逃げ事件があった。被害者は60歳台の女性で間もなく死亡、目撃した人がいて犯人は近くに住む20歳の店員と判ったが、途中で車を乗り捨てて逃走、未だ捕まっていない。今日これから見張る家に20歳の男がいる。この男は轢き逃げ犯と高校の同級生でかなり親しかった。それでこの週末に犯人がここへ立ち廻る可能性があるのでは張り込むのだと云う。

夕方また来ますと告げて二人は一旦帰ったが、6時きっかりにN刑事が別の人と一緒に見えた。「これから張り込みをするB刑事です」と紹介して帰って行った。

事後ながら管理会社にも管理組合の理事長にも張り込みの件は連絡してあるので、B刑事と入れ代わるように管理室を空け居室に引っ込んだ。B刑事は直ぐ灯りを消し張り込みを始めた様だった。居室と管理室との境は換戸一枚だけ、張り込みの妨げとならないよう電話は居室に切り換え、テレビも遠慮した。何があってもいい様に服は着たまま、晩酌も我慢して夕食を終えた。隣の管理室からは何の物音もしない。風呂に入る予定だったのも止めにした。何もしない時間は全く長い。枕を取り出し、灯りを消して横になった。背中痛さにフト気がついた。少し眠ったらしい、立ち上がって電気を点けると*

ひと・さまざま

東京同窓会長 佐伯 益一（旧中27回）



私には特に嫌いと思う人はいないが、何となく好感を持てない人は多少いる。然し他人から嫌われる人でもどこかしら良い点・長所がある筈。それを見出してあげてゆけば良好な付き合いができるものと考えている。人は多種多様、表だけを見て判断してはいけない。裏には必ず情があり人に言えぬ苦勞があるものである。自我を抑えた寛容と互譲の精神が人間社会の付き合いの要諦であろう。人間関係の難しさを理解し、克服してゆくべきだと思った。これが長年の経験から割り出した私の偽らざる人生哲学である。

私が昭和58年6月の大会で見方謙策氏（中18）の後を継いで東京の同窓会長（当時は支部長）に就いてから今年で21年が経つ。ひら幹事の時代をいれば30余年に及び、いつの間にか現役員の中で最高齢となった。この間、多くの人々に出会い、良くも悪くも色んな事を学び取った。既に鬼界に入った人もいれば自らの意思で去っていった人もいるが何れも個性豊かな先輩・同輩・後輩の人達であり懐かしく思い出す。

私は以前、ある会合の挨拶で「人は一人の友達を持てば一つの幸せを持ち、十人持てば十の幸せがあり、百人ならば百の……」と述べ、共感を得た。今いる人達を大事にしたい。つまらぬ事で友達を失ってはならぬと思ったからである。

いま全国では市町村合併の問題で騒がしい。間もなく実現するだろうが大きな改革となる。一つの例

を挙げれば首長の数が減る、議員の数も減ってくる。

経済効果も大きいし人材も出てくる筈である。

学校の統廃合問題も当然起きてくるであろうし我々の母校が今後、如何なる道に進んで行くかは分からぬが、同窓会の統廃合は有り得ない。

全国の学校や同窓会は夫々輝かしい伝統と歴史を持っている。そしてその伝統を守り育て、行くのに皆一生懸命に動いている。県人会・郷人会とて同様である。

我々にしても例外ではない。

年二回発行する会報「臥龍が丘は緑なり」を通じて東京同窓会の活躍が特に部外の方から大きな賞賛を浴びているのを誇りに思うし、この灯りは消してはならない。

言うまでもなく同窓会の活動はボランティア活動であり損得の利害は生じない。しかし如何にボランティア活動であっても、やはり合意の上に立った指導者というか采配を振る指揮者は必要である。優秀でなくともよい、気力と実行力、統率力のある指導者の出現が求められている。いわゆるガキ大将である。

私を含めて会員の高齢化が進み会員が減少しつつある現在、少子化時代といえども、毎年卒業生は世に出ていく筈。会費を納めていただく会員の増加について速やかに方策を講じなければならぬ時になっている。しかも、具体的に、ご理解いただければ、これ一つの幸せである。

*少しどころか時計は午前2時だった。管理室を見ると玄関フロアの照明が窓から差し込む机の上に、「有り難う御座いました。今晚またお願いします。午前12時20分、B」と書いたメモがあった。眠っているらしい私を起こすまいと考えて黙って帰ったのだろう。

この日の夕方、再びB刑事が見えた。少し話をしてから私は居室へ引き上げた。買い置いた苺のパックを差入れして、昨日同様アルコールなしの夕食を済ませた。食事は毎日三食を娘が用意して届けて呉れているので、こういう時は手間なしで楽だった。「どうぞテレビをつけて見て下さい」と管理室からB刑事の声がした。「ええ」と答えながらこの日も服を着たまま横になった。

目が醒めたのは午前1時だった。前の日と同様に管理室の机の上にメモがあり、苺が美味しかったと書き添えてあった。翌日B刑事から電話があった。張り込みのお礼と轢き逃げの犯人が今朝自首して来たとの報告だった。意外な結末だったが、先づはこの件落着である。二度と張り込みの場所など頼まれる事もないだろうが、この二日間の事は暫く忘れないだろうと、あれこれ振り返ってそう思った。

へのような話

風呂に浸かっていて思わず屁をこいた。泡が股間の肉塊を擦りながら上昇して、目の前で割れ、やがて香ばしい匂いが鼻をついた。可愛い奴と思った。

とたんに、つまらぬことを考えた。これが河童の屁かな、と思いながら湯からあがっても気になって仕方がなかった。早速、二・三冊の辞書をひいてみた。「屁の河童」と「河童の屁」の両方があり何れも同じ様な説明であった。そこで私は疑問を持った。

「屁の河童」は容易でたやすいこと。これは分かる。「河童の屁」については、何の造作もない物事に例へて謂う、とあったが、具体的な説明ではない。要するに水の泡のごとく消えてゆく、即ち水泡に帰すの意ではなからうかと思った。だから意味は違う筈である。頭が痛くなった。誰方か、ご教示願えれば有難いと思う。ご無礼申しました。

（伯）

ある還暦トレッカーの話

今井 孝宏 (高10回)

一番電車で家を出て8:10塩沢着、タクシーにて雲洞コース登山口に8:30着。初老の運転手によれば昔、土地の中学校では学校行事で2年生は金城山、3年生は巻機山に登ったとのこと。近くの名刹雲洞庵は昨年村松小学校のクラス会で訪れたので今日はパスする。

さて、3回目の金城山登山開始と思ったらいきなり「熊出没注意」の看板、ちょっと緊張気味に歩き出す。あまり人が通らないのか道はすっかり草に覆われているが割と歩きやすい。しかし草はたっぷり朝露を含み、30分も行く間に靴の中まで浸みて靴下はびしょ濡れになるが、代わりも無いので「ままよ」とそのまま歩く。

このコースは前二回の六日町・宮村からのコースに比べ見晴らし悪く、振り返れば谷間の木々の間から僅かにV字形の魚沼平野が見えるくらい。

途中さしたる難所も無く11:38尾根に取り付く。ここからの眺めはこの山の魅力の一つであり、巻機山や八海山など上越の山々が素晴らしい(私は晴れた日にしか山に登らない)。時折ロープや鎖を伝いながら次第に言うことを聞かなくなる脚を吐き付け、粗くなる息と戦いつつ進むと、ひょっこりと南面が数十メートル切れ落ちた岩場に飛び出す。さらに約20メートル位登ったところが頂上で、ここまで約5時間を要する。アルプスもかくやの絶景で、荷物も汗で濡れたシャツも放り出し岩場に腰を下ろしてやれやれである。コーヒーを沸かして一服、これがまたじつに美味なり。インスタントながら銀座の高級店なんか目じゃない(行ったことは無いが)。岩の端(うっかり、よりすぎて落ちたら一巻の終わり)に注意しつつ景色とタバコに満喫したら下りにかかる。

未知の水無しコースを宮村へ。名のとうり水場の無い、ひたすら尾根筋の急降下で、よくもこんなルートを開いたものだと思えながら下る。

山下りは得意なのだが(自称下りのスペシャリスト)、さすがに疲労困憊、特に最後1時間の林道が堪えた。自分では何処かで休もうと思うのだが意思に反して足が勝手にひよろひよろと前に進む。17:45宮村のバス停に到着する。下りだけで約3時間を要した。

話かわって、高校時代は山岳部に所属し山本一興先生にご指導頂いたが社会人となり、仕事や子育て等で山はいつしか遠いものとなっていた。

会社がつぶれるなど紆余曲折、子連狼で仕事が無いというのは非常に精神衛生上良くないので、そんな時絶妙なタイミングで支えてくれたのが高校の同級生近藤・宮沢の両君であり、お陰で特に“ぐれたり”することもなく55歳の手習いで幾つかの資格をとって現在未だに現役を続けている。

60歳を過ぎ、子供達も夫々独立したのを機に“山登



谷川マチガ沢からトマの耳を望む

り”を再開。約2ヶ月に1回のペースで主に日帰りの一人旅を楽しんでいる次第である。

先の上越・金城山のように3回とも人つ子一人会わないこともあれば秩父、奥多摩、日光などでは猿・カモシカに出会ったり、人気の山では行き逢う人々と一期一会が楽しめる。これが山の醍醐味でしょうか。

過ぎし日に君と歩いた谷川林道

年古りて今日吾は一人ゆく

道端の木立は新雪に埋もれ

仰ぎ見るトマの耳は青空に

白く輝く

何ゆえに吾が胸に溢れ来る

このときめき

何ゆえか他の山で味わう事も無し

私の健康考

大原 良雄 (旧中26回、新津市在住)

齢、81歳を過ぎ社会的にも疎んぜられる存在となったので、誰でもが避けて通れない「老い」についての一言、お許し願いたい。

日本人の平均寿命は、厚生労働省発表によれば女性が86.23歳で世界一、男性は78.32歳で世界二位になったという。男女とも3年連続の上昇、めでたい話ではあるが素直に喜べない。

周囲を見回すと必ずしも喜べない現実が目につく。人、誰しも加齢によって肉体的にも精神的にも衰えることは自然の摂理。しかし加齢による老化現象は生物学的にも環境的にも、個人差があるとしても、ある程度のコントロールは可能な面もある筈である。誰でも「健康で生きたい」は本能的願望である。「一番の幸せは楽しく長生きすること」と誰しも思い、願っている筈である。

「健康」とはどういう状態をいうのか、健康の定義を求めると、国連の国際保健機関(WHO)に「健康とは、単に病気でないというだけでなく、身体的、精神的ならびに社会的に良好な状態をいう」とある。ここで見逃してならないのが「社会的に良好な状態」である。身も心も良好な状態であるだけでなく家庭、職場、地域社会においても良好な状態(人間関係)が求められている。若い人とてやがては老いる。高齢者といえども臆することなく、長い人生で培われた経験、洞察力で積極的に発言する気構えを養いたいものである。そして時と場所を得て社会的に貢献したいものである。年寄りの戯言としてお読みいただきたい。

『大往生』は早すぎる



雲村 俊雄（高5）

●ちょっと変だぞ

人間は必ず死ぬものだ。当たり前である。だが自分に死が迫っていると確信したのは初めてだった。

私は松高時代、テニス部に籍を置いていた。大学時代は芸能人の家庭教師を掛け持ちしておりスポーツどころではなかった。再びラケットを握るのは35歳からである。

憧れだったカッパの本の光文社に採用されてからは水を得た魚のようだった。早朝の硬式テニススクールに通ったのは体力づくり以外に目的はなにもない。頭でっかちなジャーナリストにはなりたくなかったのである。

同期生で『ドングリの会』というテニス愛好会をつくった。同じ考えの人間がいるものだ。以来、私は小金井のテニスクラブに入会し、毎年、『ドングリの会』主催の選手権大会に出場していた。もう34年になる。一度だけ優勝した体験がある。その年は床の間の置物を黄金色の優勝カップに取り替えた。

去年は8月上旬に、浜松市のコートに懐かしい顔が揃った。引退者はまだ3人しかいない。試合が始まった。

ところが、私は平凡なロブを追って後ろに転倒し、不覚にも気絶をしたのだった。一回戦で棄権した。私は皆さんの心配を避けるため、忽々にコートを立ち去った。

●なんか変だな

帰京後、2日程して近所の病院を訪れた。土曜日なのに診てくれるという。採血で極度の貧血と分かる。では何故、貧血なのか。肝心なことがはっきりしない。

「大きい病院で、もう一度、検査してください。すぐに紹介状を書きますから」

馴染みの老院長は急いで便箋を取り出した。

「先生、明日は日曜日ですよ」と私。

「知っています。でも昔の後輩がいて診てくれます」

このことを帰宅して家内に伝えると、

「あらいやだ。私たち、夕刻から子供たちの夏休みに付き合うんでしょ。孫たちが蔵王までは新幹線〈つばさ〉に乗るんだって、あんなに喜んでいるのに可哀相だわ」

と、たちまちオカムリである。

私は家族旅行から外され、翌朝、一人ぼっちで都立大塚病院へ急ぎ、救急用の入口を潜ることになった。

●大変だあ～

「入院です。よく歩いてこられましたね。血液が通常人

の半分以下。身体のどこかに必ず異常があります」

まだ少壮気鋭な医師は無愛想に言いきった。困った。家は留守で誰もいない。仕方なく、光文社の親しい女性編集者の家に電話をかけた。

光文社には定年後、8年間も編集顧問として勤め、昨年4月に引退したばかりだからである。

「たいしたことないよ。心配ないさ。元気はいいんだ。ただ入院の支度が何もないものでね」

これが私からの一回きりの報告だった。それなのに光文社の皆さんにはよくしてもらった。だが私の病状は、予想以上に“たいしたもの”だった。

●もっと大変だあ～

『胃部に巨大なガン発見!!』

9月15日、バリウムと胃カメラ検査の結果が、家内と嫁いだ二人の娘の前で明かされたという。程なく私自身も呼び出された。沈み込んだ肉親たちに囲まれて、「発症して5年は経ちます。すぐに切るべきです」

という厳しい宣告を直接受けた。驚きは意外に小さかった。くるものが遂にきたか、という感じである。

だが2日後の呼びだしは少々きつかった。

「今度は心臓カテーテルの結果がでました。血管が4カ所も詰まりかけています。貧血の主因はこれでした。しかし当院には胸部外科がないので、手の施しようがありません。もっと大きな病院へ移ってもらえませんか」

といった話なのだ。死ぬのかな、と思った。カルテの上の『重症』の文字が不気味に煌めいて眼に沁みだした。

●もっともっと大変だあ～

9月18日、夕刻、東京医科歯科大学付属病院・外科病棟のコンセプトルーム。じつは17日の夜明け、私は救急車で大塚から、お茶の水のこの病院に運び込まれていた。手術の打合せが、早速始められているのだった。

「心臓のほうが一番初ですね」と胸部執刀の田中助教授。

「胃は3ヵ月後でしょうか」と胃部執刀の山田助教授。

ええい面倒な、と思うと、私は自分から提案した。

「どうせ切るなら、両方一緒にできませんか」と。

二人の助教授は初め眼を丸くし、今度は薄く笑った。

＊

手術は翌19日の午前8時30分から。胸部チーム14人、胃部チーム14人。終了は午後9時に及んだ。

私の闘病生活は、ここから始まったと言っていい。腕と脚の動脈を抜いて心臓に埋め、胃は3分の2除去した。歩く練習と食べる訓練からとなると赤ん坊と同じである。

しかし回復は驚異的に早かった。今年の新春からは『江戸を歩く会』の会長を引き受けた。単行本の執筆も再開した。いまは生かされた日々を大切に生きている。



元・松高校長 吉川 益男 (新津市)

会報「臥龍が丘は緑なり」をご恵送賜り誠にありがとうございました。特に50年ぶりの顔合せの記事は存知よりの方もおられましたので懐かしく拝読させて頂きました。また佐伯さんの「ちょっといい話」いつもながら楽しく読んでおります。どうぞお元気で。

東京新潟県人会広報委員 市川 昭二

会報新春号ありがとうございました。

- ・号を重ねる毎に充実される会報、大慶に存じます。特に旧26回・27回、大正生れの同級会の結束の固さは羨ましい限りです。私は旧30回の年代で今年(平成15年)喜寿を迎える私達は一泊旅行クラス会を日帰りに改めました。諸事情ご賢察くだされたく。
- ・佐伯会長さんのコラムはすべて「ちょっといい話」で楽しく読ませてもらいました。会報に潤いを与え、素敵ですね。
- ・号を重ねて36号、強力なリーダーシップのもと益々のご発展を期待しております。編集の皆様によろしく。

神田 香苗 (仙台市)

松高東京同窓会の会報第36号を拝受いたしました。旧中27回の同級会記事の中に咲花温泉のことが書かれておりましたが、これを読んで今まで知らなかった咲花温泉の由来が良く分かりました。有り難う御座いました。

仲本 智子 (沖縄県那覇市)

「人は 年齢と ともに 磨かれ 輝く」
人間の賞味期限って ご存知ですか?
物事に挑戦しなくなった時 賞味期限が切れるそうです
佐伯会長さん 日々挑戦し続けて 益々 若々しく
益々 ご健康で輝いてくださいネ。

高橋 雄也 (高7回・新潟市)

しきりに春待たるゝこの頃ですね。
先日「臥龍が丘は緑なり」新春号を贈って戴きありがとうございました。私達のクラス会や、沢出先輩による野球部の紹介がなされており、私にとって大切な保存版となりました。会の中心に貴女や八木君が名を連ねていることが素晴らしい。ご自愛の上益々のご活躍を祈念。私の健康も快方に向かい順調、ご休心ください。お会いできることを楽しみに、まずは御礼まで。

東京地区「叙勲お祝い懇親会」

鈴木 健司 (高4回)

昨年の中宿『パイラスクラブ』の例会で「今年も12月に忘年会をやろう」と合意をしておりました。

11月に「秋の叙勲で今井敬弥氏が旭日小綬章を受章された」と新聞報道で気付いた石田光男氏から連絡を受け、早々に幹事役の間で相談したところ「12月の忘年会はお祝い会にしよう」との意見が出て「渡辺嘉樹氏が5年前に、勲六等旭日単光章を受章された時は、幹事の不手際で情報をキャッチ出来ず、お祝いをやらなかった」「では渡辺氏に了解して頂いてお二人のお祝会にしよう」という展開になりました。5年遅れという誠に申し訳ない話でしたが、渡辺嘉樹氏には快く了解して頂き、12月11日JR四ッ谷駅前の『スクワール麹町』に女性8名男性19名が集いました。この会場は、渡辺氏が永年勤められた東京消防庁の職員共済組合の運営施設です。今回は、8月の「お盆懇親会」でも大変にご好評を頂いた立食パーティ方式にいたしました。

お二人へのお祝いの後、お二人が喜びのご挨拶をされ、全員で記念撮影して懇親パーティとなりました。同期生から叙勲受章者が二人も選ばれ、そのお二人と共に祝い、共に懇親の会を持つという、大変にめでたくも嬉しいパーティとなりました。毎回のことであるが、あちこちに話しの輪が出来て、故郷の話題・友の消息・青春の想出・お互いの健康のこと等々……いつまでも語り合う姿がありました。やがて予定の2時間が過ぎ、無事散会となりました。解散後は例によって、女性は同じ会館内の喫茶室でお茶会となり、男性は有志の方々と新宿パイラスクラブでの二次会となりました。

今回は「同期生お祝い懇親忘年会」と誠に盛り沢山な内容と意義ある会合でした。我々4回生は「古希」を超え、そのタイミングでの今回の会合は「一大金字塔」になったと、誇らしく思っております。

同期会・懇親会に参加できるのも健康の賜物です。懇親会が盛り上がるのは、ベースに古希を超えたお互いの健康への祝福と感謝の心があるからでしょう。今年は村松の唐橋会長主催の同期会が開催される年です。それと平行して「東京懇親会」も開催したいものです。健康の喜びと、敗戦による社会構造・価値観・歴史観など激変体験の共有・青春の回想をベースとして、残された人生の残照の中で肅々と「同期会・懇親会」が継続し、多数の皆様がご参加下さることを祈願しております。



受章のお二人を囲んで

第二のお務め

加藤 系一（高7回、村松町在住）

平成16年2月6日、午後、無風、気温2℃。

鉛色の空からゆっくりと舞い降りてくるぼたん雪の中、向かいの鈴木さん宅を訪ねた。

鈴木さんは総合建築業を営んでいる。築後40年ほど経ってあちこち故障が出る我が家の増改築等、いろいろ面倒をみてもらっている。

その関わりの他に鈴木さん宅には、小生にとってもう一つ思い入れをもって眺める建物がある。

事務所の二軒隣りにある製材場。つまり、その中で大きな機械がウィーンとうなり続けている建物。これがなんと母校村松高校で我々が学んだ校舎の一部だということをずっと以前、耳にしていたからである。

気分転換にと二階の居室から窓を開けて外を眺める時、蛍族よろしく食後の一服をくゆらす時、はたまた朝起き掛けに今日の天気はどうかと、とにかく窓を開けるたびに目の前の我が家の物置小屋越しに件の建物が眼に入ってくるのである。

今日はその建物の屋根がお飾り餅よろしくふっくらと雪に覆われている。

朝のうちに午後の訪問をお願いしておいたので遅い昼食のあとお邪魔した。ワツァイ（製材くず）のストーブで煙っぽく温もる事務所で社長さんからお話をお聞きした。以下、社長さんとの対話を記してみる。

「お邪魔します。いつもお世話になってまして」

「あゝ、よう来なった。さあさあ…」

（椅子に腰掛けて、お茶をいただきながらきり出す）

「いやーなあに、松高の卒業生の会があちこちにありまして。集まっては高校時代を懐しんだり便りを発行したりしているんですが、その中の東京同窓会から何か書いてと言われてましてねエ。ふと、お宅の製材場のことを思い出しまして。それで社長さんにインタビューに来たってわけなんですわね」

「あゝそうか。あれは松高の図書館ですがね。今から27～8年前、新校舎建てることになって校舎を解体したんですがね…。その時、ま、二足三文で値段はや一せ（安い）かったども、運び賃はこっちもちだったねエ。あの頃はまだ古い材料を大事に使うていたったねエ。焼きがわからそのまんま使うていますども、どうしてどうして丈夫なもんですえね。」

旧校舎建ててから70年ぐらいたとすると、おらとけ

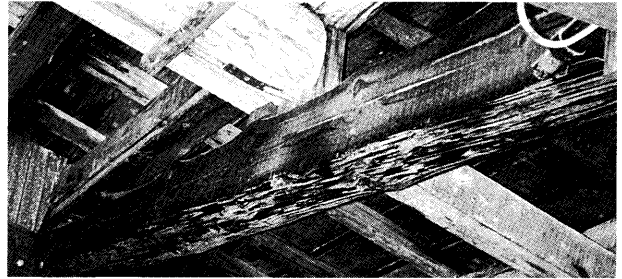
（私の所へ）持って来てから30年として…

ホイネ（ほうれ）百年だものね。うちの息子（社長の跡取り、結婚して2年）の代になってもまだまだ大丈夫だこてさ」

「木って強いもんです。法隆寺とか薬師寺の三重の塔なんか千年以上経っても未だ頑張ってますもの」

「先達てNHKのBS TVで西本願寺の本堂の屋根の大改修するとこ見たども、あの入母屋のすみ木の立派なこと！江戸時代になおしたがんを今なおすのだけ、木って長持ちだわね。（お茶2杯目をいただく）」

図書館を解体してみて分かったども、梁の木なんかはちょうなの削り跡がビッシリあって、建てた頃は製材機械なんてなかったんだわねエ。

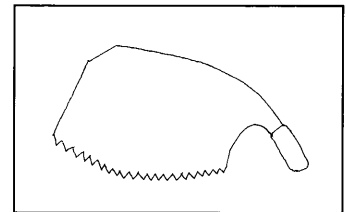


ちょうなの削り跡が残る梁

昔はでっけノコギリで丸太をひいたもんだども、おまんわかりなるか」

「ハア、まだ小さい頃だったけど見たことがありますよ」

「屋根の木材は全部松材を使うてます。これはとつても丈夫な



マグロのような形の大ノコギリ

がんでしかも地松（じまつ）で村松や周辺で調達したもんを使うていし…。下の方は杉材だったどもね。官庁仕事だすけ材質は最高でそのまんま組みなおしたこて」

「いろいろと規格にうるさかったんでしょね、官庁仕事は…」

「いいもん使うていますわね」

「お忙しいとこいろいろと聞かせてもらって有り難うございました」（お茶3杯目をいただいてから失礼した）と云うわけで旧松高の図書館の瓦と骨材は製材場として第二のお務めを永々と果たしている。

幸いにも小生はその歴史を刻む建物をいつも間近かに眺めることが出来、その度に自分の松高時代を思い出すのである。



松高の旧図書館を解体して建てた製材場

アロエベラのその後

新保 優 (高10回)

一昨年、健康増進食品のアロエベラについて、これに注目したいきさつや、その効能について紹介した。当時はかなりはまっていて、インターネットを通して生葉を買い、自分でたべると共に、友人、知人に紹介したり、分けてあげたりした。

アロエベラの葉はおいしいと言えるものではないが、食べていると確かに胃の調子が良くなるようなので、しばらく続けていた。また頻繁に手を洗う癖があるせいとか、よく荒れるので、その治療のためにアロエゲルを手塗っていた。始めてしばらくは荒れが収まって喜んでいて、やがてプツプツと手に水泡が出てきて、猛烈に痒くなった。塗るのを止めて2~3日したら、私の痒い湿疹は収まったが、同様の症状がひどくなって医者通いした友人もあり、済まなく思っている。副作用を軽視したことを反省している。ただその後、虫さされの治療に恐る恐る使って見たがぶつぶつは出なかった。私の場合は短期間ならば使っても大丈夫なようである。ゲルを食べた時も、人によっては下痢などの副作用があると言われていた。試される方は慎重にしていだきたいと思う。

生葉を安く入手しようとすると、郵送料の関係で購入単位が自分で使う分を超えてしまう。まして副作用が出たこともあって使う量が減り、手持ちの葉を持て余すようになったので、値上がりしたのをきっかけに、私は購入を止めてしまった。その代わり当時手に入れたアロエベラの苗、それぞれメキシコ産、宮古島産および近くの農家で手に入れた横浜産の3本を鉢植えて育てている。

先日、胃の調子がおかしくなったので、育てているアロエの下葉を取って久しぶりで食べてみた所、苦味と青臭さは思いの外に強く、保存しておいた購入品に勝るようであった。やはり生ものは取り立てに限るようである。なお地元横浜産は葉が柔らかくて苦味も少なく、効き目が薄そうだった。口当たりを良くして、皮ごと食べられるように品種改良されているのかも知れない。いずれにしても苗の成長が遅いので、購入品なら捨ててしまう葉先位の大きさしか取れない。本気で続けたらすぐに食べ尽くしてしまう

であろう。幸い2~3日で胃の調子は回復した。

アロエベラも成熟すると、黄色い花を付ける。まだ実物は見えていないので、図鑑の写真を引用した。五月頃に伊豆で咲くそうである。冬に赤い花を付ける木立アロエより地味な花のように見える。



瞽女さ

笠原 久 (高12回)

「チャッチャト アエベ！」アンニャガオジニユータ
もっと早く 歩け！ 兄が弟に言った

ムランナカノザリミチヲアエンデイタトキノコンダッタ
村の中の 砂利道を 歩いていた時のことだった

チョンド ソントキ メエヲゴゼサガ三人シテ一列ニナ
丁度 その時 前を瞽女さんが三人で一列にな

ツテアエンデイタ イッチャメエイグカワヨゲナゴゼサ
って歩いていた 一番前(を)行く可愛く見える瞽女さん

ハトンガリ笠 中ノオヤカタゴゼサト三番目ノゴゼサハ
は先の尖った笠 真ん中の親方瞽女さんと三番目の瞽女さんは

テノゲデホッカブリシテ曼珠笠カブッテ ホーシテコン
手拭で頬拭りして 曼珠笠被って そして今度は

ダ メエイグゴゼサガカタネテルフルシキツツミ ホー
前(を)行く瞽女さんが 担いでいる風呂敷包み 細い

セヒボデクルンダフルシキツツミ左手デツカンデ右手
紐で包んだ 風呂敷包み 左手で押さえて 右手

デツベタゲテイタ
で杖(を)持っていた

アンニャノユータコン ゴゼサニシテミレバ ンガ達
兄の言ったこと 瞽女さん(達)からすれば 自分達

ガイワッタトバッカオモテ コンダ オッコリダシタ
が言われたものとは... 思っ 今度は 怒りだした

イッチャゲッポノゴゼサガアンニャノオトスル方ネガケ
一番後ろの瞽女さん(達) 兄の声が聞こえる方角 狙って

テ ツベフッテ ボッカケルヨナフリシタ
杖 振りかざして追 掛けるような仕草をした

アンニャモオジモ ナンノコンデラト タンダ タ
兄も弟も 何のことかと 唯

マゲテショモテ オッカノナッテホンマ逃ゲテショモタ
吃驚してしまっ 恐くなって 直ぐに逃げてしまった

アンマタマゲテ イッサンガケデ 逃ゲタモンダンガ
余り吃驚して 一目散になって 逃げたものだったので

ハーハーイキツイテ帰ッタレバ カカサガ「何 ソンゲ
はあはあ息せききって帰ったところ 母が何(を)そんなに

ニッ！」ツテユースケ 「コーコーダッタ」トイッタ
と言うから この様な事だった と言った

レバ 「ソーダコテヤー ゴゼサハソーハヨナン アエ
ところ(それは)そうだよ 瞽女さん(達)はそんなに早くなんか

バンネスケ ンナラガイワッタモンダトバッカ オモ
歩けないのだから 自分達が言われたものとは... 思

テ ボッタクツタンダワヤー」 トウト ソノバンゲノ
って追い掛けたのだよ とうとう その晩の

ゴゼサノジョウヤドノウタキキニヤ イガンネエカッタ
瞽女さんの 定宿での唄聞きには 行かれなかった



つれづれなるままに

佐藤 克 (高21回)

私が東京同窓会のことを知ったのは、卒業してから32年後の平成13年の第44回大会に、一年先輩の安達繁子さんに誘われて出席させて頂いた時でした。それ以降、伝統のある村松高校卒業生の先輩方の仲間に加えて頂き、大変光栄に思っております。

私は昭和25年8月23日に、愛知県名古屋市中区にて出生しました。私の父、寛(旧中22)は歯科医師で、当時は名古屋の病院に勤務しておりましたが、村松の下根木町にて歯科医院を開業しておりました祖父の後継ぎをするために、私が3歳の時、村松へ家族5人で引っ越してきました。それから高校を卒業する迄の15年間を村松で過ごし、有意義な日々を送れたと自画自賛しております。小学校の頃は、学校から帰ると近所の上級生や同級生や下級生が皆一緒になって、缶けり・鬼ごっこ・かくれんぼ・野球・バッチ・ビー球など、毎日のように外で遊んだものでした。また、魚釣り・栗拾い・早出川(落合)への水泳等にもよく出かけたものでした。五泉新道の小川で、さくり網で小さな鮒を捕っていた時、網に蛇が入っていた時の恐ろしさは決して忘れる事が出来ません。テレビなど未だそんなに普及しておらず、テストパターンの放送が多かった時代で、NHKの柔道とか相撲があった程度で、みんな外で暗くなるまで遊んでいました。中学時代は、クラブ活動のテニスとスキーに明け暮れていました。スキーの下越大会が冬鳥越であり、回転は基門不通過で失格となりましたが、大回転は4位に入賞しました。これは大した事ではないのですが、自慢の一つです。高校でもテニス部とスキー部に入り、良き仲間と良き絆を結べた三年間でした。先輩、同輩、後輩、ありがとう。テニス部では、顧問の小柳克彦先生(高9)の特訓を受け、シングルスでインターハイ選手になった永田久雄とダブルスを組み、県大会で準優勝したことが思い出されます。永田には随分と迷惑を掛けた。あの時優勝できなくてごめん。

平成11年7月24日には、小柳先生のご退職を祝う会が35名の出席のもと、五泉の「マリエール」にて開催され、30年ぶりに会えた先生や、同級生や先輩、後輩と楽しく懇談する機会が持てました。その時の写真です。



同期生達と、右から二人目が小柳克彦先生

ところで、会報36号での水荃校長先生の話の中で、町内の山王、愛宕中学校から松高への入学率は30%台とありましたので、私達の時はどうだったか調べたら、60%は町内出身者でした。

あと7年で創立100周年を迎える伝統ある母校村松高校頑張ろう！村松高校、万歳！

私は高校卒業後、歌手になる夢を捨てて父と同じ職業を目指し、一年間の受験浪人を経て埼玉の城西歯科大学に入学し、卒業後は母校の大学病院の歯内療法学講座に勤務し、13年間、診療と学生教育と研究に携わってきましたが、縁あって浦和の地で平成元年から歯科医院を開業しております。偶然、村松の川内出身の人が患者さんとして来たことがあります。(話をしていると新潟出身の人は大概分かりますが、村松・五泉出身の人は中々おりません。)あとはたまに草加に住む同級生の羽下正樹氏が歯の治療に来ます。3年先輩の斉藤正義さんも一度お見えになったことがありました。

歯科医師過剰時代になり、これからが大変です。十数年前より、郡山にある奥羽大学歯学部非常勤講師として、年に15回ほど学生と触れ、リフレッシュをして頑張っております。いずれにしても抜苦与楽を常に忘れず、仕事に取組んでいきたいと思っております。それには健康であることが一番ですが、どうしても運動不足は否めません。元来、身体を動かすことは好きですが、今やっていることと云えば月に一回のソフトボールとゴルフぐらいです。

自宅から歩いて5分程の仕事場へも自転車を通う有様で、体重も増える一方で止まる所を知りません。週2〜3回のジョギングをと考えてはいるのですが……

昨年8月には、ソフトボールの試合で下手な滑り込みをして足首を骨折、3ヶ月間は全く運動が出来ませんでした。半年経った今もまだ痛みを感じます。皆様も運動をする時は無理をしない様に気をつけましょう。

以上、つまらない履歴報告みたいになりましたが、こんな訳の分からない奴もいるんだなと思って頂けたらと思い、書かせて貰いました。ちなみに私の実家では兄(高19回)が3代目として頑張っております。

話は変わりますが、現在のところ大会出席者の中では、私達21回卒が最年少会員のようにですが、今後は40、30代といった若い世代の会員もどんどん集まり、先輩後輩が和気あいあいと楽しく懇談できるような同窓会になったらいいなと思っています。東京同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

最後にホイットマンの一句を記します。

寒さにふるえた者ほど太陽の暖かさを感じる
人生の悩みをくぐった者ほど生命の尊さを知る

訃報

岡本 和子女史 (旧女25回)

平成15年12月15日に逝去されました。
岡本和子女史は長年にわたり東京同窓会の副会長を務められ、会の発展に多大な貢献をされてきました。
ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

沢山の思い出をありがとう

佐藤 玲子 (旧女25回)

平成15年の師走も半ば、突然の訃報が入った。東京同窓会副会長として長年にわたり活躍した岡本和子さんの他界の知らせでした。

病気療養中ではあったが、必ず元気な顔を見せてくれるものと信じて居ただけに大変なショックを受けました。いつもニコニコしてタフで、その上カリスマ性のある方でした。そんな岡本さんだけに残念でなりません。この時ほど人の命の儚さを感じた事はありません。

二十五年来の永いお付き合いの中で、いろいろ楽しかった思い出が頭の中を走馬灯のように駆け巡るばかりです。

二年半の苦しい闘病生活によく耐えられました。どうぞ天国で安らかにお休み下さい。東京同窓会に色々と貢献して下さい岡本さんを偲び御冥福をお祈り致します。



鎌倉あじさい寺にて右から三人目が岡本さん

鈴木 節子 (旧女25回)

二十五年来のお友達である岡本和子さんが、昨年12月に亡くなりました。2週間前にお見舞いに行った時帰り際、いつものように「また来るね」と互いに力強く手を握り、あんなに元気だったのに……

あまりにも突然の事で驚きと悲しみに呆然とし、人の命の儚さをこの時ほど痛感したことはありませんでした。

岡本さんは東京同窓会の副会長として長い間活躍されました。また私達のグループを確り束ね、それは、それは楽しかった数多くの旅行や皆で面白可笑しく過ごした日々など良き思い出ばかりです。

天国の岡本さんに「有難う」と心から思いつつ安らかに眠られることを祈って居ります。

第一回ゴルフ親睦会開催

平成16年4月21日(水)快晴に恵まれて松校東京同窓会の第一回ゴルフコンペが入間カントリー倶楽部にて開催されました。全員で記念撮影をし、和気合い合いの中をAM9:31スタートとなりました。

それにしても皆さんお年の割にはお元気で、最年長の伊藤氏の華麗なスイングとお元気さには、ただただ脱帽するのみでした。ゴルフ終了後、特別室にて成績発表と表彰式があり、お楽しみの懇親会となりました。普段よく存じ上げない方々とも親交が深まって、同窓の絆が一層強くなったと思います。次回の幹事は笹川隆氏と吉井清氏にお願いすることが決まり、次は10月に大会を開く約束をして散会となりました。

この度は亀山氏と金子氏には格別のお骨折りを頂き心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



入間カントリー倶楽部INコースのスタートホールにて

「成績」(敬称略)

優勝・笹川隆、2位・間藤謙一、3位・伊藤勇五

「参加者名」(順不同・敬称略)

伊藤勇五(中33)、亀山知明(高3)、新井康夫(高5)
石川 滋(高5)、金子鶴男(高5)、笹川 隆(高5)
山崎輝雄(高8)、吉井 清(高8)、鈴木輝雄(高8)
片柳ムツ(高8)、間藤謙一(高9)、大橋貞夫(高10)

ちょっと・いい話

人から頂き物をしたり親切にしてもらった時にはその場で必ず「ありがとう」と感謝の意を述べる事は当然だが、後日再びその人に会った時、「やあ〜先日は」と、また謝意を述べるだろうか？忘れてしまったか、もう礼を言ったのだからと思っているのか？どちらかであるが、殆んどの人は言わぬだろうと考える。「前に贈り物を送って貰ったがお礼を言いましたっけ？」と訊く人がいた。たとえ聞いてなくとも「聞いてますよ」と答える。相手を恥ずかしめない思いからであるが、うっかり失念していたと云う事もあり得るので、お礼は2回以上は言うべきだと思っている。何度重ねても損はないし、逆に親密さが深くなってゆくものである。(伯)

第二回ゴルフ親睦会のお誘い

- ・ 期 日——平成16年10月21日(第3木)
- ・ 会 場——入間カントリー倶楽部
- ・ プレー費——15,000円
- ・ 参加費——3,000円
- ◎幹 事・・・笹川隆(高5)、吉井清(高8)
- ◎世話人・・・亀山知明(高3)

Tel 042-572-5096

Fax 042-572-3696

参加希望者は亀山知明氏までご連絡をお願い致します。
大勢の方々のご参加をお待ちしております。

堀 直昭氏の個展『夢幻風景』

堀氏(高8回)の個展が5月1日～31日の間、第12回伊豆高原アートフェスティバルにて催されました。毎年開催されているそうで、同窓の皆様もお問い合わせの上お出かけされてみてはいかがでしょうか。

堀工房 〒413-0232

伊東市八幡野1332-37すいらん荘6区53

Tel 0557-53-3178

落書きは、だめ

まもなくアテネ五輪が開幕される。日本選手団の活躍を期待しているが、危惧する事が一つある。それは応援群(マスコミはサポーターと呼んでいるが、団ではない)の姿勢である。日の丸の国旗に、落書きはしないでくれと願うことである。

白地に「必勝」とか「頑張れ」とか黒々と書いた旗を打ち振る姿を見たら外国の人達は何と思うだろうか？まさに国旗を冒瀆する国辱ものとなる。

前にもこんなことがあったが、書きたければ別の布に書いて応援するべきであろう。(伯)

小出博三氏個展

2月29日(日)～3月6日(土)の間、小出氏(高8回)の個展が東京交通会館B1で開催され、初日に拝観してきた。明るい色彩と懐かしさを覚えるような絵が多く、氏の人柄が偲ばれた。大勢の拝観者で賑わい、次回も同窓の方々と共に楽しみたいものである。



来観者と談笑する小出氏(右から二人目)

ちよつと・いい話

バス停の前に長い行列ができています。やがてバスが来る。すると近くのベンチに座っている年寄りの人が近づいて来た。列に並んでいた人が手招きして自分の前に立たせた。親切心は理解できる。そして行列が一人分か二人分、長くなることになる。

さすれば最後尾にいる人は、あるいは座れるかも知れないチャンスを失うことになる。座って行きたければ次のバスを待てばよいので、順を送った人は最後尾に着くべきだと考えるが如何なものであろうか。よく見られる光景であるが、これは単にバス停のみならず、どんな場合でもそうだと思っているが。(伯)

編集後記

◆イラクで大量破壊兵器は未だに見つからず、イラクの民衆をフセインの虐待から解放したことをイラク戦争の大義名分にしてしているブッシュ大統領は今、苦境に立たされている。

収容所に拘束されているイラク人がアメリカ軍兵士により虐待・拷問されていた事が判明した。日毎にイラク国民の反発が強まり、イラク戦争の大義名分が色あせて来ている。もしかして、石油絡みの米国資本の進出だったのではないのか。いずれにしても、収容所の虐待問題を白日にさらしたのは報道の力である。非人道的な行為は直ちに正されるべきで、アメリカ議会でも公聴会が開かれ、ラムズフェルド国防長官が証言している。

◆三菱自動車もハブ欠陥問題をひた隠しにして苦境に陥っている。三菱ふそう前会長等七人が逮捕され、タイヤ脱落の責任を追及されている。人命の重さを軽視しての利益追求は許されない。

◆「末納三兄弟」と年金問題で政府を鋭く追及した民主党の菅代表が、自分の年金未加入を見落としていた。野党第一党の党首としては真に粗末なドタバタ劇を演じたものである。

おかげで福田官房長官の突然の辞任が際立って仕舞った。民主党の両院議員懇談会で「3党合意」が了承され、換わりに菅代表は辞任する羽目になったが参議院選挙を控え、このドタバタ劇は民主党にとって大きな不利をもたらすだろう。

この会報は、会員各位の情報やお考えを掲載して会員同士の結束を図りたく存じます。皆様の投稿をお待ちしております。

広報委員会

平成16年6月 第37号

表紙の題名・題字は、佐伯益一氏(旧中27)書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

事務局 〒157-0061 東京都世田谷区北烏山3-18-20 八木又一郎 方

Tel & Fax 03-3307-1048



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	新 校 歌
1. 塵の巷を遠ざけて 雲たち迷う白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流れにも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰か心ぞや 5. それ英雄も人傑も 人の子吾等がたぐいなり 嗚呼松城の健男児 勇みて立つべし諸共に	1. 愛宕の山のむら松の 常緑色の常磐なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雲にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. 其の名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂うごと 気高き姿保たばや	相馬御風 作詞 中山晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなぎれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生気湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
応援歌	応援歌	応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高なる血潮 たたえつつ春の日めぐる 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て はなくれないの香に匂う 誉れは高き松城の 健児が胸に血やおどる 2. 我等がえらぶますらおの 誉れは海の湧くがごと 望みは雲のゆくがごと 月の桂をなゆずりそ 栄えある名をぞとこしえ に	1. 松城健児六百が 祖国のために剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権をゆずる事なかれ 我等六百ここにあり 3. 今壮快の晴れいくさ 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権をゆずることなかれ 我等六百ここにあり